

海老名市

そだちの教室

# にじいろ教室

教室概要



海老名市立杉本小学校

令和7年4月 現在

## 海老名市の通級指導教室について

海老名市では、すべての子が、ともに学び、ともに育つ、フルインクルーシブ教育を推進しています。これは、ただ同じ場所で過ごすことを目的にしているのではなく、こども一人ひとりの学びの保障と、すべてのこが学びに参加することを前提とした学校づくりを目指すものです。通級指導教室は、こどもたち一人ひとりの学びの充実を図り、さらにフルインクルーシブ教育を推進していくための一つの仕組みとして考えています。

海老名市立杉本小学校 そだちの教室 「にじいろ教室」

虹の架け橋のように、子どもたちが持っている様々なカラー（個性）を大切にし、それぞれの良さを伸ばしていったほしいという思いから「にじいろ教室」という名前になりました。

通級してくる子どもたちにとって、様々な面での「架け橋」となるような教室を目指し、支援していきます。

### 1 指導の目的

通常の学級に在籍する児童の中には、友達とうまく遊べなかったり、集団生活・活動に対応できなかったりして、本来の力を十分に伸ばしきれない児童がいます。そのような児童に対して、一人ひとりの能力・特性に応じた指導を行い、学校生活がスムーズに送れるように総合的に支援していくことが大きな目的です。特に、行動上の課題の改善、対人関係の改善、能力的なアンバランスの改善を目標として、社会生活への適応を高め、より豊かな人間性の育成を図ります。

### 2 指導の基本方針

- (1) 保護者と相談し、子どもへの理解を深め、一人ひとりにそった適切な指導計画を立てます。
- (2) 指導計画をもとに、当該児童が集団の中で安心できる状態になるように指導を重ねていきます。
- (3) 学級担任・保護者・その他必要な機関と連携し、「そだちの教室での学び」を日常で活用できるように促します。

### 3 指導の対象

こんな願いのある子どもたちが対象です。

- ・友だちとうまく遊びたい。
- ・静かに待てるようになりたい。
- ・思っていることをうまく話せるようになりたい。
- ・話を聞いて、何をしたらいいのかすぐにわかるようになりたい。
- ・学校生活や遊びのルールを守れるようになりたい。
- ・相手の気持ちや状況を考えて、行動できるようになりたい。

- ・スムーズに活動を取りかかれるようになりたい。
- ・忘れ物を少なくしたい。

通常の学級に在籍し、ASD(自閉スペクトラム症・自閉症)や、LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)などの発達障がいがある児童や、コミュニケーションや学習・行動にアンバランスさがみられる児童の中で、保護者から申請のあった児童。

## 4 指導の内容

### (1) 情緒の安定につながる指導・支援

#### <感覚統合遊び>

五感・前庭感覚・時間間隔等を刺激する遊びを通して、物事を認知する力を高めたり、自分自身を思い通りに動かしたりできる機能を高めます。感覚が統合され整うことで、認知のずれが小さくなったり、情緒が安定したりといった効果が期待できる活動です。

#### <ルールのある遊び>

「勝ち負けを受け入れること」や「順番を待つこと」など、対人関係の中で生じる情動についての困難さに対しての上達を図ります。遊びの中で意図的に場面やめあてを設定し、実際の場面の中で、当該児童の状況や課題に合わせた適切な対処の仕方を指導していきます。

#### <不適応の改善>

まず、自信と意欲を回復し情緒の安定を図る。そのうえで場面の状況を理解させ、適切な行動をとることができるよう指導していきます。不適応をおこしている考え方や言動については、その原因や背景を読み取って、児童本人や学級担任とともに解決の方法を考えていきます。

### (2) 学習の困難さに合わせた指導・支援

#### <教材の工夫>

見やすい・扱いやすい・心地よい教材や教具を用意し、当該児童が理解できることを主眼に置いた扱い方を確認し、学習の基本的な力を身につけるために支援を行います。

また、LD 傾向のある児童には、学習を補助する道具を作成し、扱い方をレクチャーしながら支援を進めることがあります。

#### <学び直しや分量の調整>

当該児童の状況によっては、過去に学んだ単元の学習が定着していないことが原因で、学習に支障をきたしていることがあります。つまずきの原因となっている単元を再履修することで、現在の困難さに働きかけていきます。また、その際、当該児童の能力を見取りながら、分量を調節し、安心して学べるよう配慮した関わりをしていきます。

### (3) 社会性・対人関係における指導・支援

#### <会話の練習や SST>

意図的に場面を設定して、対人関係にかかわるスキル(挨拶・会話の運び方・依頼の仕方・お礼の仕方・人のしぐさの読み取り方・人の話の聞き方・話し方など)を学び、場面の状況に応じた適切な対処の仕方を指導します。

日常的に必要な事物・事柄に関することばの理解やその適切な使い方、場面や状況の理解などを、一人ひとりの能力に応じて指導します。「話す」「聞く」という基本的な力を身につけられるよう、ロールプレイやゲームを通して経験を積むことができます。

## 5 指導の連携

### (1) 保護者への支援

- ・お子さんの特性や状況を知り、困っている状況を解決に導くための相談が気兼ねなくできるようさまざまな手立てを用意します。
- ・面談を通して、児童本人の様子を軸に、様々な角度からの情報を共有してプログラムを設定します。
- ・児童本人の日常に、効果的な対応や、それによる変化を反映させられるよう、関係する各方面と連携します。

### (2) 在籍学級担任との連携

- ・年度当初、もしくは入級時に、個別の指導計画を共有し、「長期目標」とそれを細分化した「短期目標」の設定を協働で行います。また在籍級担任との情報共有を日常的に丁寧に行います。
- ・基本的な生活の場は在籍学級です。当該児童の在籍級での様子を、そだちの担当者が定期的を確認し、指導に反映させます。
- ・在籍級担任がそだちの指導の参観する機会を設け、当該児童の学びを確認するなど、児童本人の日常に「にじいろ教室」での学びを反映できるよう工夫します。

## 6 指導の形態

- 次の3つの指導形態を組み合わせながら指導と支援を行います。
- 週に1時間30分(2単位時間)、45分(1単位時間)で行います。

### <グループ指導>1時間30分(2単位時間)

実際に友達と関わり合いながら、情緒安定のための自己理解や社会性・対人関係における指導・支援を行います。少人数のグループで行います。

(例)

#### ①個別指導

静かに取り組む練習をする。

#### ②はじめの会

毎回決まった流れで始め、心理的な安定を図る。

スピーチを行う。

#### ③グループ指導

国語や図工、ゲームなどの活動をグループで行ない、やりとりの理解やルール・場面に応じた行動や集団指導ができるようにする。

#### ④おわりの会

その日のふりかえりをする。

### <取り出し指導>45分(1単位時間)

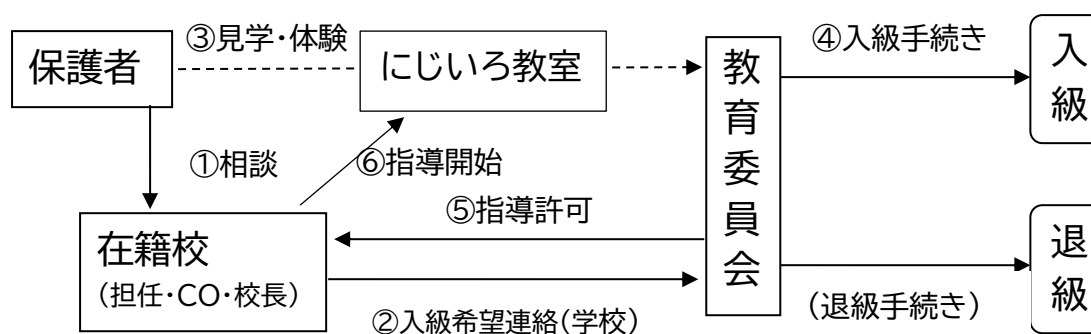
授業中に取り出しをおこない、そだちの教室に行きます。情緒の安定のための指導・支援

(グループ指導よりも大人との対話や活動の中で自己理解を深めたり、行動の振り返りを行ったりします。)

### <教室支援>45分(1単位時間)

授業の中でグループ活動がある時で、困難さが予想されそうな時に教室に支援に入ります。

## 7 入級の流れと留意点



※子ども自身や保護者が通級を希望することから始まります。

※学年や学期の途中からでも開始できます。

※通級教室に通う際、送迎が必要な場合があります(他校通級の場合は必須)。

通級時の児童の安全の確保を図るとともに、保護者の方にも子どもの実態を共有することを目的としています。公共交通機関使用の場合は交通費が出ます。

自校の児童で、送迎ができないときは、都度フィードバックを行います。

## 8 退級について

○長期目標をすべて達成した際に支援の必要がなくなったときには、退級に向けて歩を進めていきます。

○退級のタイミングは、家・在籍校・にじいろ教室、それぞれの状態を見ながら担当と相談をして決めますので、退級の意思がある場合にはご連絡ください。